

留学先国名 : 中国

留学先学校名 : 精華大学

留学期間 : 平成 28 年 2 月 5 日 ~ 平成 28 年 7 月 31 日

清華大学での授業は毎日午前中を中心に行われていました。私が配属された高級班という中国語のクラスでは基本的に中国と何か血縁上繋がりがある学生が多く、両親のどちらか、または両方中国人という学生も少なくありませんでした。そうした状況から彼らの中国語の特に会話の分野でのレベルは高く、私もその高いレベルについていくために予習復習を行っていました。ただ、やはり授業の内容だけでは使う時間や場所が限られており中国語の更なるレベルアップは難しく、以下に記述している清華大学野球部での活動が私の語学力の向上に大きな影響を与えていることは言うまでもありません。

学校について寮の窓から外を見ると、野球場があり、大変驚きました。中国で野球が発達していないことを知っていたので、まさか大学に赤土の入った立派な野球場があるなんて想像もしていませんでした。後から聞いた話によると、北京市内でもこうした球場があるのは清華大学だけで、自分がこの学校を選んだことにすぐ縁を感じました。そして 2 月のある日、留学生活の更なる発展を求め、この大学の野球部で活動することを決心しました。

中国では一般的に日本の部活のようなものは少なく、ましてや清華大学をはじめとする国内屈指の名門校に入学するためには、幼いころから日々勉強漬けといった様子で彼らにとっては部活動をする時間の余裕もなく、基本的には大学生になってはじめて部活動やサークルに参加する学生が一般的です。私が入った野球部も例外ではなく、私と台湾から清華大学に進学した一人の学生以外は、大学から野球を始めたと言っていました。部員は合計 50 数人で国外からの留学生は私たった一人でした。監督をはじめ部員はみんな熱心で、学業優先の限られた時間の中で様々な練習方法を取り入れ、レベルアップを目指していました。

中国の大学生野球に対しては主に MLB（メジャーリーグ）が出資しており、私が参加した北京市の大会では随所にそうした部分が見て取れました。試合会場には MLB の各球団のマークが飾ってある他、運営の手伝いをしている学生たちは皆、MLB の帽子を被っていました。中でも私が一番驚いたものは北京市大会にオールスターゲームがあるということです。

大会を通じて活躍が認められた選手が各学校から 1~3 名ノミネートされ、大会の公式サイト上でポジション別にファン投票が行われ、選ばれた選手が試合をするというものでした。実は私は光栄にも一塁手部門でノミネートされ、ネット上でのファン投票に進むことになりました。ファン投票という名前ですが実際にはノミネートされた選手の友人や知り合いによって投票してもらうもので、私も自分のありとあらゆる中国や日本の知合いに投票をお願いしました。この投票は We Chat(微信)と呼ばれる日本の LINE のような SNS アプリを利用して行われるもので、このアプリを持っていれば世界中どこからでも投票することが出来ます。投票の結果、私には合計 2906 票集まりましたが一步及ばず選出ならずでした。しかし嬉しいことに

運営本部からの推薦があり、そうした形でオールスターゲームに参加することが出来ました。この北京市の大会の終了をもって私の清華大学での野球部の活動も終わりを迎えました。私の清華大学での生活は野球部と共にありました。彼らと日々生活し、野球はもちろん食事や遊びに行ったりすることで中国語を話す機会が自然に増え、自他ともに語学力の向上を感じていました。

今後留学を考えている人たちに伝えたいことは、短い留學生活の中で自分から積極的にチャンスをつかもうとする姿勢を常に持ってほしいということです。僕はこうして清華大学の野球部に入ること、もし入っていなければ得ることのない経験やかけがえのない人たちと出会うことが出来ました。やはり受け身では何も始まりません、まして舞台は外国です。自分から積極的に動いていかなければ時間だけが過ぎていきます。形は何でも構いません、現地の人たちの集団に溶け込み、彼らと密に交流を重ねていく中できっと毎日が充実していくと思います。

先述のとおり、清華大学留學中にたくさんの人と出会うことが出来ました。特に私が以前から関心のあった中国の野球に第一線で関わっている方と多く出会うことが出来、交流をする中で様々な話を聞き、改めて自分でもどうすれば中国の野球が発達していくか、既にそうしたシステムを確立し国際的にもその実力が認められる我々日本の野球に携わるものが手助けできることは何かを留學中考えていました。

まずは少年、青少年の育成に力を注ぎ、アマからプロへの育成のシステムを確立していくことが大切だと考えています。現在中国では小学生や中学生を対象としたスポーツクラブが増えてきており、野球もその例外ではありません。

私は今回の留學中、清華大学野球部に入り、自身がプレーするだけでなく、数多くの中国の子供たちに野球を教えさせていただく機会を得ることが出来ました。先述のとおり、清華大学は中国の中でも有数の野球の名門校で、その卒業生も何らかの形で今も野球に関わっていることが多く、私もある中国人の先輩と出会い、彼が主催する野球クラブにて子供たちに野球を教えていました。彼は清華大学卒業後、CCTV（中国中央電視台）にて後にも先にも唯一の野球記者として国内のリーグはもちろん、五輪やWBC などにおいて豊富な取材経験を持ち、今は独立し子供たちに野球を教え、中国野球の発展に貢献するために様々な取り組みを行っておられます。その団体には下は五歳から上は中学三年生までの男女が参加しておりみんな楽しく野球をプレーしていました。レベルに関してはまだまだ発展途上ですが、野球だけでなく礼儀、マナー、国際性の養成といった様々な教育的側面にも力を入れて取り組んでいます。

この半年の生活で、本当にかげがえのない経験を得ることが出来ました。改めてあの時、自分から清華大学の野球部に入りに行き行って良かったなと心から思っています。そうすることで、日々中国の人たちと一緒に喜怒哀楽を共有し充実した生活が送れたのではないかと思います。語学の面はもちろん、生の中国を感じられたことを嬉しく思います。このような機会を与えていただき、そして支えてくださった全ての方々に心から感謝しています。ありがとうございました。